

ラインで開催している。量子ドット(QD)やVRディスプレイなどの開発成果を披露した。

技術は、持ち運びできるフレキシブルディスプレイや、壁紙のような大画面ディスプレイでの採用を視野に、色純度の高いQD発光材料を開発しており、色鮮

部分とセル部分の周りにインク溶剤をなじませるための配位子を持つ。コアの直径は数十nmで、コアのサイズによって発光色が変わるのが特徴。大きいと赤、小さくなるにつれて青と変化し、各色のサイズを揃えると、色純度の高い鮮やかな発光を得るこ

い発光を実現した。赤と緑色にはリン化インジウム材料、青色にはセレン化亜鉛化合物を用い、BT2020規格の約80%を再現できるようにになった。

今回、QD材料の薄い膜を2つの電極で挟んだ構造の素子を発表。インク状のQD材料をガラス板上に塗

ジ(株)と共同開発した30インチ4Kフレキシブル有機ELを用い、視野角180度をカバーする湾曲型ディスプレイを製作した。厚さは0.5mm、重さ100g。画面サイズ51・3インチ、画素数6480×3840、

開発したフレキシブルディスプレイは、薄いフィルム基板の上に有機EL素子を作製し、薄く軽く、曲げることができる。厚さは0.5mm、重さ100g。画面サイズを1色あたり0.057mmと微小にして、30インチで解像度4Kを実現している。

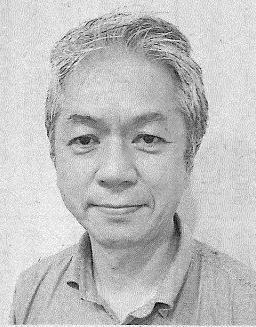
重いモジュールを集約。高性能CPUによる高度なアプリケーション実行環境と大容量バッテリーの搭載を実現し、長時間の現場作業に利用可能とした。

作業記録すべてを「Link Work」が提供するクラウドサーバーへ送信・保存するため、現場での記録をア



インタビュー

鳴秀一氏



アフロディテ(株)代表取締役CEO 鳴秀一氏

では同装置の測定方法が全面的に採用されており、21年末にはIECも取得できる見通しだ。

ファクトとなっており、日本でも大手メーカーで採用が進んでいる。DM&S社は、ディスプレイ

部分は、最終的に8Kの美しさを発揮できず、同じ解像度のディスプレイでぼろつきが生じる要因となっている。

部分であり、パネルとして組み合わせた際に、どのような性能が発揮できているかを計測できる装置やノウハウはないため、この領域もカバーしていきたいと考えている。

アフロディテ(株)(東京都町田市原町田1-13-1、☎042-732-3160)は、ディスプレイ光学測定機器事業、ディスプレイコンサルティング事業、新しいディスプレイを用いた次世代ライフスタイルの企画・開発事業を手がけている。長年、ディスプレイ関連事業に携わってきたCEOの鳴秀一氏が2013年11月に設立し、20年5月には本社近隣にテクノロジオフィスも開設した。今後の事業展開や展望などを伺った。

貴社が日本総代理店を手がける独DM&S社のディスプレイ専用システム「SMS-1000」のぎらつき測定方法がJIS規格に採用され

ました。どのような装置ですか。

鳴 世界初のディスプレイ専用システムで、ア

ンチクレア(AG)処理されたディスプレイの表面のぎらつきを定量評価し、数値化する装置だ。14年から市場展開され、高

精度化によりぎらつき測定の一歩が高まっていった車載ディスプレイで採用が広がった。欧州カーメーカーではすでにシ

ンチ4Kフレキシブル有機ELを用い、視野角180度をカバーする湾曲型ディスプレイを製作した。厚さは0.5mm、重さ100g。画面サイズを1色あたり0.057mmと微小にして、30インチで解像度4Kを実現している。

ぎらつき評価システムがJIS採用

検査領域の拡充で美しい画面評価促進

防眩性(反射、透過、Haze)と③解像度(DO)の評価が可能。1台で3つの性能計測ができ、今後は②と③についても大きくアピールしながら導入を進めていく方針だ。車載ディスプレイの次は、近年高精度化が著しいモニター、ノートPCが視野にあり、現在

は大手PCメーカーで採用の検討が進んでいる。どのようなニーズで②と③の定量化が必要となるのでしょうか。

鳴 ディスプレーの高精度化が進むということは、より美しい画面になるといえる。ところが、ディスプレイの輝度や色度、コントラスト、動画面性については計測装置や

方法は以前からあるものの、SMS-1000がカバーする①②③の領域については定量的に計測できる装置はなく、また計測することも進められてこなかった。

このことは、パネル自体は8Kの解像度を実現しているにも関わらず、使用する部材の特性によ

られることは、美しいディスプレイを普及させることに貢献できると考えられている。今後は、事業に従事するなど、長年ディスプレイ業界に貢献されています。今後の抱負を。

鳴 ディスプレーは人間にとって身近なデバイスで、人の目で認識されることに価値がある。今後は、デバイスとしての技術的な進化だけでなく、人間が見るうえで

の赤字)となった。前年同期比で防衛用の売上高が42%増加するなど、引き続き国防向けの需要が堅調だった。現在10を超えている開発プログラムに関わっており、これらが収益に寄与した。下期には3つのプログラムが初期生産に入り、22年の収益に貢献する

の赤字)となった。前年同期比で防衛用の売上高が42%増加するなど、引き続き国防向けの需要が堅調だった。現在10を超えている開発プログラムに関わっており、これらが収益に寄与した。下期には3つのプログラムが初期生産に入り、22年の収益に貢献する

の赤字)となった。前年同期比で防衛用の売上高が42%増加するなど、引き続き国防向けの需要が堅調だった。現在10を超えている開発プログラムに関わっており、これらが収益に寄与した。下期には3つのプログラムが初期生産に入り、22年の収益に貢献する

の赤字)となった。前年同期比で防衛用の売上高が42%増加するなど、引き続き国防向けの需要が堅調だった。現在10を超えている開発プログラムに関わっており、これらが収益に寄与した。下期には3つのプログラムが初期生産に入り、22年の収益に貢献する

の赤字)となった。前年同期比で防衛用の売上高が42%増加するなど、引き続き国防向けの需要が堅調だった。現在10を超えている開発プログラムに関わっており、これらが収益に寄与した。下期には3つのプログラムが初期生産に入り、22年の収益に貢献する

の赤字)となった。前年同期比で防衛用の売上高が42%増加するなど、引き続き国防向けの需要が堅調だった。現在10を超えている開発プログラムに関わっており、これらが収益に寄与した。下期には3つのプログラムが初期生産に入り、22年の収益に貢献する

の赤字)となった。前年同期比で防衛用の売上高が42%増加するなど、引き続き国防向けの需要が堅調だった。現在10を超えている開発プログラムに関わっており、これらが収益に寄与した。下期には3つのプログラムが初期生産に入り、22年の収益に貢献する

の赤字)となった。前年同期比で防衛用の売上高が42%増加するなど、引き続き国防向けの需要が堅調だった。現在10を超えている開発プログラムに関わっており、これらが収益に寄与した。下期には3つのプログラムが初期生産に入り、22年の収益に貢献する

の赤字)となった。前年同期比で防衛用の売上高が42%増加するなど、引き続き国防向けの需要が堅調だった。現在10を超えている開発プログラムに関わっており、これらが収益に寄与した。下期には3つのプログラムが初期生産に入り、22年の収益に貢献する

の赤字)となった。前年同期比で防衛用の売上高が42%増加するなど、引き続き国防向けの需要が堅調だった。現在10を超えている開発プログラムに関わっており、これらが収益に寄与した。下期には3つのプログラムが初期生産に入り、22年の収益に貢献する

の赤字)となった。前年同期比で防衛用の売上高が42%増加するなど、引き続き国防向けの需要が堅調だった。現在10を超えている開発プログラムに関わっており、これらが収益に寄与した。下期には3つのプログラムが初期生産に入り、22年の収益に貢献する

の赤字)となった。前年同期比で防衛用の売上高が42%増加するなど、引き続き国防向けの需要が堅調だった。現在10を超えている開発プログラムに関わっており、これらが収益に寄与した。下期には3つのプログラムが初期生産に入り、22年の収益に貢献する

の赤字)となった。前年同期比で防衛用の売上高が42%増加するなど、引き続き国防向けの需要が堅調だった。現在10を超えている開発プログラムに関わっており、これらが収益に寄与した。下期には3つのプログラムが初期生産に入り、22年の収益に貢献する

の赤字)となった。前年同期比で防衛用の売上高が42%増加するなど、引き続き国防向けの需要が堅調だった。現在10を超えている開発プログラムに関わっており、これらが収益に寄与した。下期には3つのプログラムが初期生産に入り、22年の収益に貢献する